神奈川県教育委員会教育長　殿

提出日：令和２年４月 30 日
学校名：県立厚木清南高等学校　（全日制）

平成 31 年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標（平成 28 年度策定）	１年間の目標	取　組　の　内　容		校　内　評　価		学校関係者評価（２月 29 日実施）	総合評価（３月 31 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	柔軟な学びのシステムを活かした教育課程の編成を推進する。 生徒が主体的に学び、学力の定着が図れるような授業を実現するための研究を推進する。	①新学習指導要領の趣旨を踏まえた、新教育課程の編成を構築する。 ②生徒が主体的に学べるための授業研究を行う。 ・ＩＣＴ機器等を利活用することで、さらに分かりやすい授業の実現を目指す。	①学校目標を踏まえ、本校に相応しい新教育課程の編成を、教科横断的な視点を持ち、各教科との調整をはかる。 ②各教科を中心に、授業形態の研究を継続するとともに、教科を越えた授業互見をとおして、生徒が達成感をえられる授業を行う。 ・ＩＣＴを利活用し、教員間で連携・共有を図りながら「わかる・できる」授業を目指すとともに、ＢＹＯＤ回線を利活用した効果的な授業展開を実践する。	①各教科からの意見の集約と調整がはかれたか。 ②科目担当者間での充実した討議および教科を越えた情報交換ができたか。 ・ＩＣＴを利活用した授業例や教材等を教員間で共有しながら授業改善ができたか。	①各教科において検討の機会を持ち、意見の調整を図ることはできなかった。 ②教科を越えた授業互見や一斉教科会を通じて定期的に討議を重ねた結果、授業展開の中で生徒がどのように考えているかを再確認することができた。	①検討日程を、全体に対して提示し、新教育課程を教職員一体で考える体制を確立し、検討を進めたい。 ②他教科の授業互見で得られた成果を中心に一斉教科会で討議したが、その成果を科目担当者間で深めるにはさらなる研究の必要があると思われる。来年度、職員全体でこの点を考えて行きたい。	・授業互見や教科会での検討を通じ、生徒の施行の確認ができたことなどは重要な成果であった。 ・ICT の活用や BYOD 回線を利用した授業など先進的な取組が行われた。	・新教育課程の編成に向けて、学校全体を見据えた意見の集約等を行う必要性が認識された。 ・ICT 利活用は全体的に向上するも BYOD については発展途上の状態である。	・令和３年３月を目標に、新教育課程の検討主体の確立を目指していく。 ・ICT、BYOD について今後も勉強会をすすめ授業の充実を図っていく。
2	生徒指導・支援	多様な課題を抱える生徒に対応するため指導、支援体制の充実を図る。 学校行事を通して生徒の自己肯定感の向上を図る。	①外部の関係機関の人材と連携し、支援体制の充実を図る。 ・学校いじめ防止基本方針に基づく取組を徹底する。 ②生徒が主体的に活動し、自己肯定感が高められる環境づくりを進める。	①ＳＣやＳＳＷの存在の周知を図る。また、生徒に関する情報を迅速に収集し、必要に応じてＳＣやＳＳＷにつなげる。 ・いじめの定義や基本認識について教員・生徒に周知徹底する。 ・いじめの原因につながるコミュニケーション能力の育成を図る。 ②学校行事などで生徒が主体的に活動できるような環境づくりをする。	①ＳＣやＳＳＷの存在を生徒に周知できたか。生徒の情報を収集し精査するシステムが構築できたか。 ・いじめの定義や基本認識について、共通の概念をもつことができたか。 ・ホームルールや集会等の機会を使って、コミュニケーションに関する取り組みをおこなうことができたか。 ②学校行事や委員会活動、部活動が生徒主体の運営となっていたか。	①全校集会の場でＳＣを紹介した。生活アンケートにいじめの定義を明記し、周知を図った。「困ったシート」を導入し、生徒情報の収集に努めた。 また、年次のレクリエーション等を通じて、円滑な人間関係の構築をはかった。 ②昨年度と同様に、事後アンケートでは８割以上の生徒がそれぞれの目的を達成できたと回答した。	①「困ったシート」の利用件数がまだ多くはないので、次年度も周知・活用を推進していく。 コミュニケーション力の育成は引き続き課題とするところである。取り組みの様々な形を模索していきたい。 ②今年度も、中心となって活動を率いていく生徒が少なかったことが一番の課題である。 また、中心になった生徒とそれ以外の生徒の取組姿勢に隔たりがあることが散見された。	・ＳＣの紹介や「困ったシート」の導入など新たな取組が見られた。 ・生徒の内面的な課題解決に向け、ＳＣやＳＳＷとの連携を今後も充実させてほしい。	・「困ったシート」等を通じて多くの職員から生徒情報を収集することを試みたが、「困ったシート」等の存在はいまだ浸透しているとは言えない状況である。 ・ＳＣ、ＳＳＷについては存在の周知を図っているが、具体的な利用の仕方や相談内容に関しては、教員も含めて理解が不十分な面がある。	・生徒情報をよりスムースに収集できるようなシステムづくりに努める。 ・生徒のみならず、教員に対しても、ＳＣやＳＳＷの存在とその意義を伝える機会を設け、充実した連携体制の構築につなげる。

	視点	４年間の目標 （平成 28 年度策定）	１年間の目標	取　組　の　内　容		校　内　評　価		学校関係者評価 （２月 29 日実施）	総合評価（３月 31 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
３	進路指導・支援	生徒一人ひとりが将来性、計画性を踏まえて自己実現ができる進路指導の充実を図る。	①多様な課題を抱える生徒に対応するキャリアサポート体制の充実を図る。	①年次段階に応じ、総合的にキャリア支援計画を企画実行する。 ・各年次で進路ガイダンス等を活用し、生徒一人ひとりの進路実現に向け支援する。 ・進路に関する情報を保護者に周知することで家庭との連携を深める。	①生徒の進路意識向上につながる取組ができたか。生徒一人ひとりの進路実現が達成できたか。進路カルテの活用度が増したか。 ・生徒の進路実現を支援するガイダンスを開催できたか。 ・進路に関する情報等を保護者と共有することができたか。	①年次段階に応じたキャリア支援の取り組みを実施できた。 ・業者等を活用し、新入試制度についての情報提供を行うことができた。 ・保護者を対象とした、年次段階に応じた説明会を行うことができた。	①進路カルテについては年度末の利用にとどまったので、より効果的な活用について考えていきたい。 ・進路を含めた生徒の問題を担任が抱えている現状がある。生徒と担任双方のサポート体制を考える必要がある。	・生徒のニーズに合ったキャリア教育の充実に今後も努めてほしい。 ・進路カルテの継続的・計画的な活用は有効である。	①生徒一人ひとりの進路実現に向けての手厚い対応を今後も継続してゆくとともに、将来の職業選択に向けての知識やキャリア教育を積み重ねてゆく必要がある。 ・進路ガイダンス等、年次段階に応じたキャリア教育計画についてより検討を重ねる。	①1 年次から職業理解に係るキャリア教育を計画し、ハローワーク等外部機関と連携しながら、将来を見据えた進路指導とキャリア教育を展開してゆく。 ・生徒情報の共有化に努め、進路を含めたサポート体制の充実を図る。 ・生徒の成長の記録としての進路カルテの活用を図る。
４	地域等との協働	地域に理解され、信頼される活動を推進する。	①地域との連携を推進し地域貢献活動に積極的に取り組む。 ・防災活動について地域との協働を図る。 ②教育活動の情報発信の充実を図る。	①生徒会活動などを通して地域の小中学校等との連携活動を行い、生徒一人ひとりが社会の中での役割と責任を果たす機会を充実させる。 ・厚木市や近隣自治会と連携・協議して「避難所初動マニュアル」を整備する。 ②ホームページのＣＭＳ化への円滑な移行をするとともに、教育活動の目的や生徒の活動の様子を発信し、本校への理解度を図る。	①地域の小中学校等との連携活動を増やし、内容を充実させることができたか。 ・厚木市や近隣自治会と連携・協議をして「避難所初動マニュアル」を整備できたか。 ②ホームページのＣＭＳ化への円滑な移行ができたか。また、情報提供の媒体として、活用度が向上し、見やすさが改善されたか。	①生徒会役員の生徒が、厚木二小の毎年恒例のイベントでさまざまなゲームやスポーツのサポートを行った。 ・厚木市より本校を避難所とする自治会が指定されておらず、整備に至っていない。	①今年度も、本校の初任者と生徒が厚木二小のイベントに招待され、児童たちと活動を共にすることができ、双方によい刺激になったようだった。今後もさまざまな形で地域との連携に取り組む必要性を感じる。 ・厚木市と連携をはかり、本校を避難所とする自治会を早急に指定するよう働きかける。	・厚木第二小学校との交流の一層の活性化を図れる取組ができるとよい。 ・自然災害が毎年起こる中、地域との連携に今後も努めてほしい。	①厚木二小学校のイベントでは、本校の初任者と生徒が小学生と楽しく交流することができた。しかし、例年、小学校側の準備期間が短くなってきていて、本校からの提案ができなくなってきている。 ・学校周辺の清掃活動や岡田保育園の防災訓練への協力などを継続している。一方、避難所として厚木市や地元自治会と協働した運営委員会の設置が遅れている。	①厚木二小学校との交流については、日程が固まりしだい打合せをして、イベント内容の充実をはかっていく。 ・地域の清掃活動、岡田保育園の避難訓練への協力は今後も継続し、「避難所運営委員会」の設立には、厚木市にさらに強く働きかける。
５	学校管理 学校運営	安全・安心な学校づくりのために三課程が連携して教育活動を展開する。 フレキシブルスクールとして三課程の情報共有を推進する。	①学校運営マニュアル等の内容の充実を図る。 ・三課程で連携実施する防災訓練を発展させる。 ②ＩＣＴ機器の利活用により、学校運営の円滑化をさらに推進する。	①安全安心な学校に向けた管理計画の内容充実と周知を図る。 ・三課程が協力して、教員主導でなく生徒主体の実践的な防災訓練を計画し、実施する。 ②ＩＣＴ機器の利活用を一層勧めるための研修を実施し、教職員のスキルアップをはかる。	①学校運営マニュアル等の内容の充実を図れたか。 ・実施要項に基づき、生徒主体の三課程合同の防災訓練が実施できたか。 ②研修会の内容や、その後の教職員の利活用状況に変化が見られたか。	①学校防災マニュアルの簡易版を全職員に配付し周知した。 ・今年度も三課程避難訓練を実施することができた。	①濾水器使用研修会や防災訓練時に防災備蓄品を点検するなど活動の充実を図った。 ・避難の訓練は問題なくできることがわかった。今後は様々な災害を想定した訓練を計画したい。	・三課程の連携・協力が進んできている。本校の大きな特徴で強みである。	①各課程での防災訓練の他に三課程合同の防災訓練を実施して、安全・安心を担保しているが、近年の気候変動の影響から台風による大雨や洪水の危険が増加している。	①本校の生徒のみならず、近隣住民も含めての安全・安心を考えた防災計画、備蓄計画を考える必要がある。